

観光振興対策特別委員長報告

観光振興対策特別委員会における、これまでの調査並びに審査の経過についてご報告申し上げます。

委員会設置以来、県内宿泊客増加に向けた観光の振興に関すること及び質の高いイベントの実施と県の文化力の向上に関することについて、県内の実情を含め、各般にわたり調査並びに審査を行ってまいりました。

まず、初度委員会においては、令和3年度主要施策の概要、県内宿泊等促進キャンペーン事業、NAFICを核とした賑わいづくり事業、中町「道の駅」整備事業、奈良公園施設魅力向上事業などについて、詳細な説明を受けました。

次に、九月定例会においては、奈良まほろば館新拠点のリニューアルの状況について報告を受けるとともに、コロナ禍での飲食店支援などの質疑が行われ、飲食クーポンによる新型コロナワクチン接種促進事業については県民に目的をしっかりと伝えられたい、奈良公園バスターミナルにおいては早急にバス誘導の機械化といった運用改善を検討されたいとの要望がありました。

次に、十一月定例会においては、オンラインツアーや修復文化財のデジタルデータなどのデジタル技術の活用、まほろば健康パークの機能強化などの質疑が行われました。デジタル技術の活用にあたっては、奈良の魅力を発信し、観光客の誘致・集客等に繋げるため、オンラインツアーなどの取組を進められたい、貴重な修復文化財のデジタルデータは、セキュリティ対策を図るとともに、将来の商業利用も検討されたい、また、まほろば健康パークの機能強化にあたっては、近隣の関係施設や計画との連携を進める必要があるため、大和川直轄遊水池事業との連携についても検討されたいとの意見がありました。

次に、県外調査として、奈良まほろば館に赴き、新拠点の概要や運営

状況などリニューアル後の取組について調査を行ったところでありま
す。

次に、二月定例会においては、まほろば健康パーク機能強化基本計画
(案)パブリックコメント結果概要について報告を受けるとともに、「い
まなら。キャンペーン2021」の利用実績や、奈良県コンベンション
センターなどについての質疑が行われました。また、奈良まほろば館の
運営にあたっては、損益分岐点、売上等の目標値を設定し、目標と現状
の乖離率を集計するなど、経営状況の把握に努められたい、まほろば健
康パークの機能強化にあたっては、最寄駅であるファミリー公園前駅の
バリアフリー化に向け、鉄道事業者と協議を進められたいとの意見があ
りました。

また、委員間討議では、渋滞緩和を目的に実施するパーク・アンド・
ライドに関して、観光と交通政策の両面で調整を進めていく必要がある
との意見や、公園整備が本格化し、平城宮跡南側の仮設駐車場が廃止さ
れた場合に、奈良公園バスターミナルの駐機機能の課題が再び生じない
よう検討されたいとの意見がありました。

以上のような経緯を踏まえ、以下、四点について、さらに要望するも
のであります。

一 オンラインを活用したツアーなどは、予習効果があることを踏まえ、
民間に任せるだけでなく、県としても状況を見据えながら引き続き取
り組むほか、修復文化財のデジタルデータの利活用の検討など、デジ
タル技術の活用に取り組みたいこと。

一 新型コロナウイルス感染症が収束し、より多くの観光客、インバウ
ンドが戻ってきた場合に備え、奈良市内の渋滞をどのような形で緩和
していくのか、観光戦略と公共交通戦略の両面で調整を進め、取り組

まれないこと。

一 まほろば健康パークの機能強化に関して、防災拠点としての整備のほか、大和川直轄遊水池事業との連携を検討されたいこと。

一 奈良まほろば館については、売上目標など、各目標値を設定して、効果的な運営に努めること。また、まほろばチャレンジリーグを含めた県産品販売の取組については、県産業の振興に役立つ情報の発信・収集の場としても活用されたいこと。

なお、今後も、当委員会においては、所管事項に関することについて、引き続き慎重に審議を行ってまいりたいと考えております。
以上、中間報告といたします。